航空ファン
KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
三菱
零戦52型



☆特 集☆
カラー特集：エドワーズ基地の F-16
現地ルポ：NATO 各国空軍の総合演習
日本の空を飛ぶために里帰りした零戦

'78 10
OCTOBER

BUNRIN-DO JAPAN
$3.50

エドワーズ基地のF-16



F-16s AT EDWARDS AFB

[illegible]



F-16A with ECM pod under the intake and AGM-65 Maverick [illegible]

Photo by [illegible]

(Photo by F.B. Mormillo)

滑走路上で，T-38A，F-4E，F-15と共に離陸待機中のF-16A。





↑着陸する複座練習型のF-16B。

↑F-16B two-seat trainer version.

↓胴体下にECMポッド，翼端にサイドワインダーAAM，主翼下面に爆弾を装備したF-16A。

↓F-16A equipped with ECM pod under the belly, Sidewinder AAMs on the wingtips and bombs under the wing.

(Photo by F.B.Mormillo)



NATO軍のTAM78参加機



滑走路上で離陸待機中の、西ドイツ空軍第35戦闘爆撃航空団（JBG35）所属のF-4F。
F-4F of JBG35, W.German AF

PARTICIPANTS OF NATO TACTICAL AIR MEET 78





↑着陸進入する西ドイツ空軍第33戦闘爆撃航空団（JBG33）所属のF-104G。
←ドラッグシュートを開いて着陸した、オランダ空軍第306スコードロン所属のRF-104G。
↓カナダ国防軍第1航空師団所属のCF-104G。

↑F-104G of JBG33, W. German AF, on landing approach.
←RF-104G of 306th Sqdn, Royal Netherlands AF, landing with the help of dragchute.
↓CF-104G of 1st Air Div, Canadian Defense Force.



↑イギリス空軍第2スコードロン所属のジャギュアGR.1、↑オランダ空軍第314戦術戦闘飛行隊所属のNF-5A、↓在欧米空軍第26戦術戦闘航空団（26th TFW）第17戦術偵察飛行隊（17th TRS）所属のRF-4C

↑Jaguar GR.1 of No.2 Sqdn Royal Air Force
↑NF-5A of 314th Tactical Fighter Sqdn, Royal Netherlands AF
↓RF-4C of 17th TRS, 26th TFW, USAF







タイガーミート参加の航空機
PARTICIPANTS OF TIGER MEET '78

Photo by I.A.A.P.







カナダ国防軍第439スコードロンのCF-104G。

ベルギー空軍第10戦闘爆撃団隊（10thFBW）第31戦闘爆撃飛行隊（31stFBS）所属のF-104G。





(Photo by I.A.A.P.)

(Photo by I.A.A.P)



↑イタリア空軍第53ウィング第21スコードロン所属のF-104S。
←米空軍第36戦術戦闘航空団（36thTFW）第53戦術戦闘飛行隊（53rdTFS）所属のF-15A。
↓ノルウェー空軍336スコードロン所属のF-5B。

↑F-104S of 21st Sqdn, 53rd Wg, Italian AF.
←F-15A of 53rd TFS, 36th TFW, USAF.
↓F-5B of 336th Sqdn, Norwegian AF.

(Photo by I.A.A.P)





Photo by I.A.A.P

△米海軍第8哨戒飛行隊（VP-8）所属のP-3B。
▷イギリス空軍第230スコードロン所属のピューマヘリコプタ。

△P-3B of VP8, US Navy
▷Puma helicopter of No.230 Sqdn, Royal Air Force.

Photo by I.A.A.P





Photo by I.A.A.P

▽ポルトガル空軍第62スコードロン所属のG-91。
▽G-91 of 62nd Sqdn, Portuguese AF

(Photo by I.A.A.P)







(Photo by R.E.Kling)

LTV A-7コルセアⅡ

上 空母ニミッツに搭載されている第82攻撃飛行隊（VA-82）所属のA-7E。
下 空母サラトガに搭載されている、VA-37所属のA-7E。

上 A-7E of VA-82, assigned to USS NIMITZ
下 A-7E of VA-37, assigned to USS Saratoga.

LTV A-7 CORSAIRE Ⅱ

(Photo by R.E.Kling)



↑空母ドワイト・D・アイゼンハワーに搭載されているVA-66所属のA-7E
→アトランタ海軍航空基地で撮影したVA-205のA-7B
↘コロラド州航空州兵第120戦術戦闘飛行隊（120thTFS）所属のA-7D

↗A-7E of VA-66 aboard USS Dwight D. Eisenhower
→A-7B of VA-205, Atlanta NAS
↘A-7D of 120th TFS, Colorado ANG.







BOEING E-3A AWACS

(Photo by J.Cupido)



空中早期警戒管制機ボーイングE-3A

原型1号機は1975年2月に初飛行。量産型1号機は1976年7月に完成して翌年3月末に戦術航空団第552早期警戒管制連隊（552ndAEWCW）に配属された。写真はマッコード空軍基地で撮影したもので、下の機体はNATOに配備されている機体。

(Photo by J.Cupido)



Prototype No.1 made its first flight in February 1975. The 1st production version was finished in July 1976 and assigned to the 552nd AEWCW in March 1977. Below is the one assigned to NATO.



(Photo by R.E.Kling)

ロッキードC-130H輸送機



(Photo by R.E.Kling)

ロッキードC-130は輸送機のベストセラーといわれる機体で、36カ国に及ぶ国で多数合わせて1,500機以上が使用されている。
(1)スーダン空軍のC-130H
(2)ガボン空軍のC-130H
(3)カメルーン空軍のC-130H

(1)C-130H of Sudan AF
(2)C-130H of Gabon AF
(3)C-130H of Cameroon AF

LOCKHEED C-130H

At present, a total of more than 1,500 C-130s are in use by 36 nations.



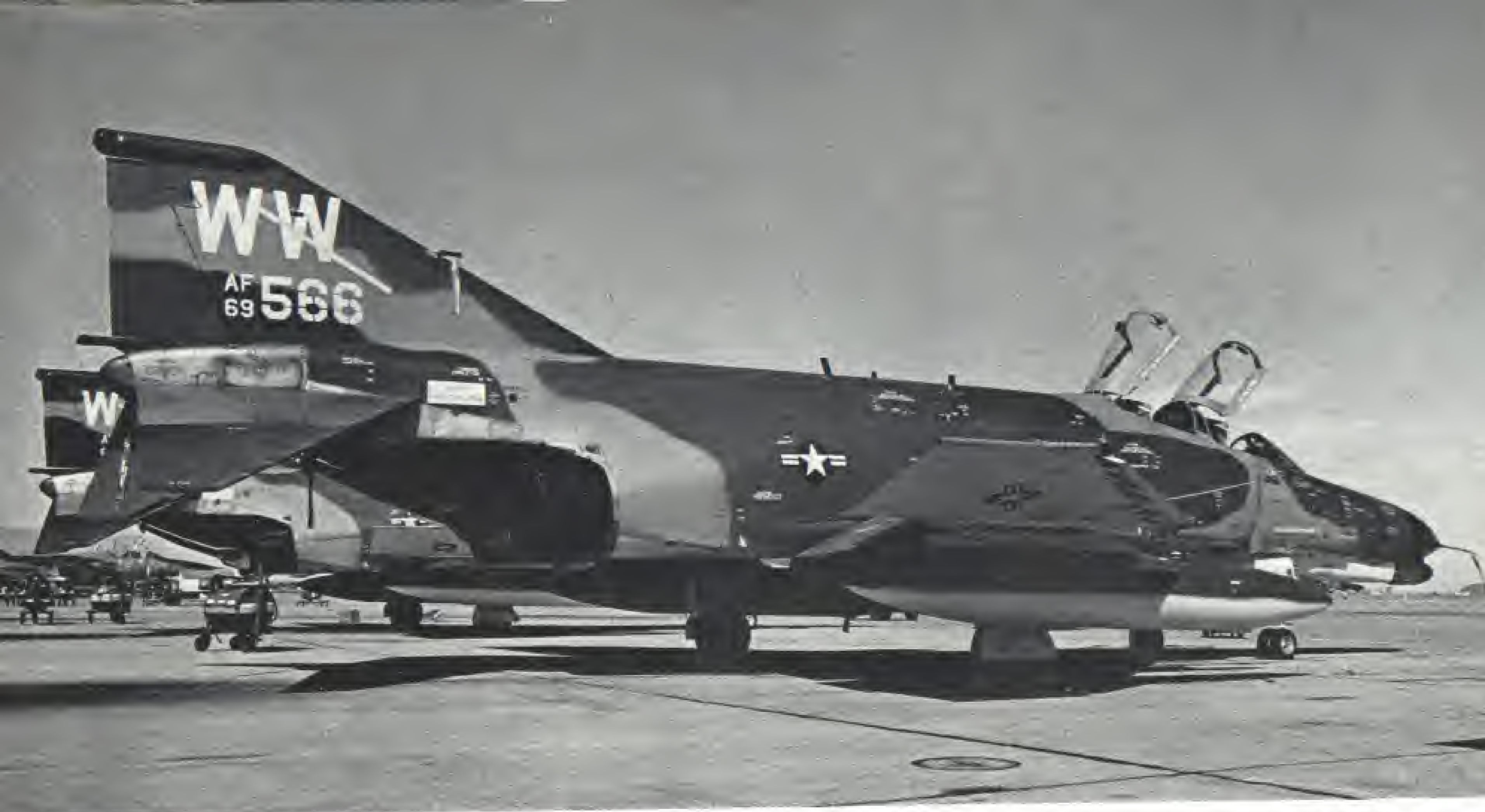
(Photo by R.E.Kling)

ワイルドウィーズル機の ファントムとサンダーチーフ

"Wild Weasel" Phantom & Thunderchief.

Photo by F. B. Mormillo





(Photo by F. B. Mormillo)

前ページとこのページは，ジョージ空軍基地の第35戦術戦闘連隊（35th TFW）第563戦術戦闘飛行隊（563rd TFS）に新たに配備されたF-4Gワイルドウィーズル機．同機はF-4Eを基に改造されており，E型との相異点は垂直尾翼上部に中・高周波数用アンテナを収めた大きなフェアリングを取り付けたことと，機首下部のバルカン砲が取りのぞかれ，その収容部にも尾翼と同じアンテナを装備していることである．また胴体上部などに多数のアンテナが増設されている．

F-4G "Wild Weasel" aircraft, assigned recently to 563rd TFS, 35th TFW. They are beginning to replace F-105Gs in the wing.

ジョージ空軍基地の第39戦術戦闘飛行隊(39th TFS)所属のワイルドウィーズル型F-4C
同部隊のF-4CはF-4Gに機首変更されることになっており，F-4Cは予備役空軍(AFRES)
にまわされる。

"Wild Weasel" type F-4C, 39th TFS, George AFB. F-4Cs will gradually be replaced by F-4Gs and finally be transferred to AFRES.

(Photo by F.B. Mormillo)





(Photo by F. B. Mormillo)

F-4Gの主翼パイロンに装備された訓練用シュライク対レーダー用ミサイル

Shrike anti-radar missile fixed at the F-4G wing pylon.

F-4Gの胴体下部に装備されたAN/ALQ119アクティブECMポッドのクローズアップ。

AN/ALQ119 Active ECM pod, installed at the F-4G belly, close-up.

(Photo by F. B. Mormillo)





上 ジョージ空軍基地の滑走路わきで離陸待機中の第35TFW所属のF-105Gワイルドウィーズル機。F-105GはF-105Fを改造したもので，その特徴である胴体下面両側のふくらみの中にはQRC-380ジャミング装置が装備されている

下 タキシング中のF-105G。左主翼のパイロンには訓練用シュライク，右主翼パイロンにはSUU-20A/Aディスペンサーを装備している。

(Photo by F.B. Mormillo)

上 F-105G "Wild Weasel" aircraft of 35th TFW, George AFB. The QRC-380 jamming device is contained in the bulge.

下 F-105G with the Shrike on the left, and SUU-20A/A dispenser on the right wing.

(Photo by F.B. Mormillo)





□離陸するF-105G. 胴体下部のジャミング装置のふくらみがよくわかる。ジョージ基地の35th TFWのF-105GとF-4Cはすべて1979年初めまでにF-4Gに機首変更されることになっている。

F-105G. The 35th TFW's F-105G and F-4C are to be replaced by the F-4G by early in 1979. replaced

(Photo by F. R. Mormillo)

博物館入りしたミグ-23原型機

MIG-23, PROTOTYPE, PLACED IN MUSEUM

同機は1967年6月9日のドモデドボ空港で行なわれたモスクワ航空ショーで、アレクサンドル・フェドトフ大佐の操縦で会場をフライパス初公開された。その後ミグ-23はフロッガーB、C型につづいて、地上攻撃型のミグ-27という派生型もつくられている。

People were surprized when this aircraft piloted by Alexander Fedotov flew at the Domodedovo display, June 9, 1967. MiG-27 is one of the MiG-23 variants.





中国人民解放軍の戦闘機

（中国通信社）

△高空飛行訓練を行なう，中国人民解放軍の海軍航空部隊　機体はミグ-19

MiG-19. Naval Air Force units in flight training.

▽軍事訓練を強化し，戦闘能力を高める中国人民解放軍航空部隊の訓練風景

In hard training with MiG-19 fighters.

（中国通信社）

FIGHTERS OF PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA







1978年 戦術空軍競技大会

TACTICAL AIR MEET 1978

（本文62ページ参照）



去る6月5日～14日まで、西ドイツのビルデンラース基地で"1978年戦術空軍競技大会"が行なわれた。今年は昨年まで1年おきに行なわれていたローヤル・フラッシュ偵察競技会と戦術兵器大会が同時に行なわれ、ベルギー、カナダ、西ドイツ、オランダ、イギリス、アメリカの部隊が参加した。



TAM'78 is the first time the Royal Flush reconnaissance and Tactical Weapons Meet have been held together, the contests being held every other year. Units from Belgium, Canada, Germa[ny,] the Netherlands, the UK and the US participated.

戦技兵器大会は中央ヨーロッパ連合空軍（AAFCE）の第２連合戦術空軍（2ATAF）と4ATAFで競われた。また，偵察競技の方は各国チームが別々に行なった。各チームの参加機は４～５機で，写真のように尾翼にA～EあるいはI～Vというコードレターが描かれている。

［上］離陸する在欧米空軍第50戦術戦闘連隊（50thTFW）第496戦術戦闘飛行隊（496thTFS）所属のF-4E。

［中/下］西ドイツ空軍第35戦闘爆撃連隊（JBG35）所属のF-4F。



F-4E of JBG35, Luftwaffe









〔上〕競技を終えて着陸する，西ドイツ空軍第51偵察連隊（AKG51）所属のRF-4E。
〔中〕着陸する在欧米空軍第26戦術戦闘連隊(26thTFW)第17戦術偵察飛行隊(17thTRS)所属のRF-4C。
〔下〕離陸前の機体点検をする，西ドイツ空軍第36戦闘爆撃連隊(JBG36)所属のF-4F。

The competition was held between the two Air Forces of Allied Air Forces Central Europe (AAFCE), TWOATE and FOURRATAE. The final result in the TAM was a narrow win for TWOATAF.

(Top) RF-4E of AKG51, Luftwaffe

(Mid) RF-4C of 17th TRS, 20th TFW, USAFE.







〔上〕着陸進入するオランダ空軍第314戦術戦闘飛行隊所属のNF-5A。胴体中央下にSUU-20/A爆弾・ロケット弾パックを装備，主翼下には150ガロン増槽を装備している
〔中〕エプロンで整備中のオランダ空軍第314戦術戦闘飛行隊のNF-5A。
〔下〕滑走路手前で離陸前の最終チェックを受ける，カナダ国防軍第1航空大隊所属のCF-104G。

(Top) NF-5A of 314th TFS, Royal Netherlands AF.
The SUU-20/A pack is equipped under the belly, 150 gal drop tanks under the wing.
(Mid) NF-5A of 314th TFS, Royal Netherlands AF.
(Below) CF-104G of 1st Air Btn. Canadian Defense Force.





（上）離陸する西ドイツ空軍第33戦闘爆撃連隊（JBG33）所属のF-104G
（中）タキシング中のオランダ空軍第306スコードロン所属のRF-104G。胴体中央下に装備しているのはオルフェウス偵察ポッド。
（下）フライトラインで整備中のベルギー空軍第10戦闘爆撃連隊（10FBW）所属のF-104G。胴体下にSUU-21/Aディスペンサーを装備している。

(Top) F-104G of JBG33, Luftwaffe.
(Mid) RF-104G of 306th Sqdn. Note the Orpheus pod.
(Bottom) F-104G of 10th FBW, Belgian AF, with SUU-21A dispenser.











△着陸進入するベルギー空軍42スコードロン所属のミラージュ5BR偵察機。機首にはパイロットの名前が白でかかれている。
◁着陸したイギリス空軍20スコードロン所属のジャガーGR.1。主翼下面に訓練用爆弾のキャリアーを装備している。
▽フライトラインで整備中のイギリス空軍20スコードロンのジャガーGR.1。

△Mirage 5BR of 42nd Sqdn, Belgian AF, with the pilot's name on the nose.
◁Jaguar GR.1 of No.20 Sqdn, Royal Air Force, with bomb carriers under the wing.
▽Jaguar GR.1 of Royal Air Force, in maintenance at a flight-in.





エドワーズ基地のF-16

F-16s AT EDWARDS AFB

(Photos by F.B. Mormillo)







現在エドワーズ空軍基地の空軍テストセンターではF-16の先行量産型機の各種テストが続けられている。ここに紹介する写真は武装テスト中のF-16で，上は翼端にサイドワインダーAAM，胴体下にECMポッド，主翼下には爆弾ラックを装備したF-16A，中および下は翼端にサイドワインダーと，主翼下に爆弾を装備したF-16A。

Pre-production model F-16s are being tested at Edwards AFB. Load tests here introduced. Aircraft are fitted with Sidewinder, ECM pod and bomb racks (top), and Sidewinder and bombs (mid and bottom).







△▽胴体中央下にECMポッド，主翼下面にAGM-65マーベリックミサイルを[illegible]備したF-16A。F-16は小型の機体なので，ミサイル類がかなり大きく見える。

▽△F-16A with ECM pod under the belly, AGM-65 Maverick missiles under the wing.







(Top) F-16A in USAF standard camouflage for the F-16.
(Mid) F-16, prototype No.2, fitted with Sidewinder AAM.
On the nose are drawn national flags where this aircraft are in use.

〔上〕着陸滑走中のF-16A。この機体に施されている迷彩が、米空軍のF-16用の制式塗装に決まっている。
〔中〕翼端にサイドワインダーAAMを装備したF-16原型2号機。機首にはF-16採用国の国旗が描かれている。
〔下〕フライトラインに並ぶF-16A。







△着陸するF-16の複座練習型F-16B。

▽F-16B at an apron.

▽エプロンで翼を休めるF-16B。



PHOTO NEWS



海上自衛隊の昭和53年度公開訓練が，去る7月23日，3,000人の観覧者を集めて大島沖の太平洋上で行なわれた。
△編隊飛行するPS-1哨戒飛行艇。
▽対潜ロケット弾を発射するS2F-1。
More than 3,000 visitors enjoyed the Japanese Maritime Self-Defense Force's grand anual exercise held off Oshima, Tokyo Bay, on July 23, 1978.
△PS-1 patrol flyingboat flying in formation.
▽S2F-1 fires an anti-sub rocket bomb.





△編隊飛行するP-2J。 △P-2J formation flight.
▽編隊飛行するS2F-1。 ▽S2F-1 formation flight.





△対潜爆弾を投下するP-2J。
▽対潜護衛艦あきぐも上空を飛行するHSS-2。
△P-2J drops an anti-sub bomb.
▽The AKIGUMO and HSS-2 flying over the ship.





△沖縄の南西航空は今年12月から，ボーイング737を導入するが，写真は南西航空発注の3機のうちの1号機で，米ワシントン州シアトル上空をテスト飛行中のもの。南西航空では737の導入にともなって機体の新塗装を採用，色は白い機体にオレンジ色と赤のストライプが描かれている。

△The first of three Boeing 737s to be assigned to Nansei Airlines, Okinawa starting this December, is in test flights at Boeing Field, Seatle, Washington. This is the new painting of the Nansei airliners.

▽低騒音機を開発するためのテスト機QSRAの初飛行がこのほど，ワシントン州シアトルのボーイング・フィールドで行なわれ，1時間15分におよぶ初飛行に成功した。QSRAは低騒音でSTOL性を備えた民間用短距離機開発のための実験機で，NASAエームズ研究所の委託によりボーイング社が開発したもの。

The "QSRA" made its first test flight recently at Boeing Field, Washington.







△7月末岩国基地で撮影した VMFA-122のF-4Jで、同部隊はVMFA-251にかわり新しく岩国基地に配属になったもの（広島市　林　利行）。

◁7月上旬横田基地に飛来した米陸軍のOV-1モホーク（東京都　古川計夫）。

▽厚木基地に着陸するVP-48のP-3C。尾翼のマークが機首にも描かれるようになった（東京都　竹内義久）。

△F-4J of VMFA-122, Iwakuni MS, July. (Photo by T. Hayashi, Hiroshima)
◁US Army's OV-1 Mohawk appeared in Yokota AB, early July. (Photo by K. Furukawa, Tokyo)
▽P-3C of VP-48, Atsugi NS. Note the marking on the nose. (Photo by Y.Takeuchi, Tokyo)



カラーで見る

零戦のコクピット内計器板

A6M5 Zero Fighter's Cockpit Interiors

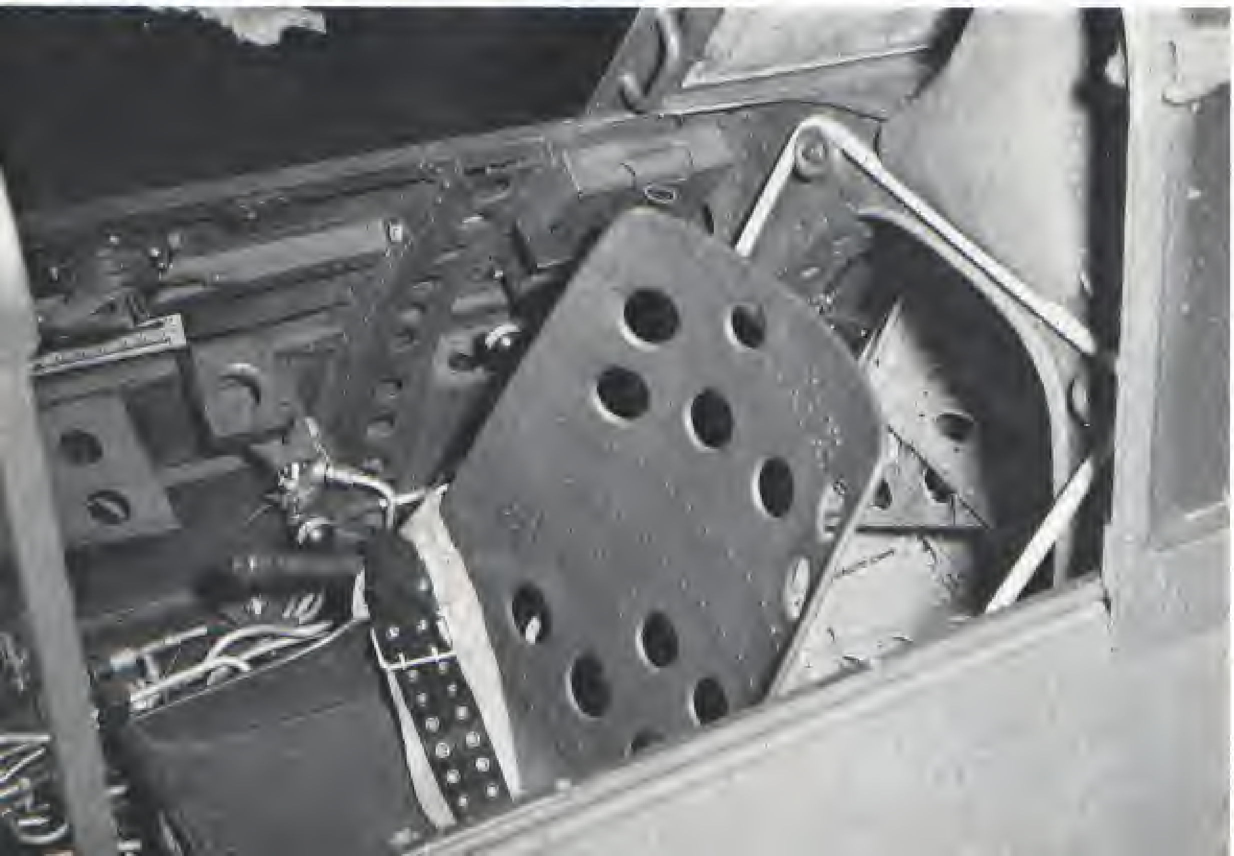
(84ページ本文記事参照)





零戦52型のコクピット内計器板　　A6M5 Zero Fighter's Cockpit Interior

前ページのカラー写真と同じく，スミソニアン航空博物館が保管している零戦52型の機内配置．下の写真は前上方から座席の部分をのぞいたもので，シートベルトもそのまま．座席の後方の白く見えるひも状のものは座席の緩衝用ゴム，背あての右側の箱は送受信器操縦ボックスで，その前方の内壁に取付けられている把手の付いたまるいのは着艦フックの巻上げハンドル，その直下のやや白く見える矩形状のものは着艦フックの下げ度とフラップ開度の指示計である．





上の写真では、中央のOPL射撃照準器がよくわかる。その左右のボックス状は7.7mm機関銃，左側床上に上向きに並べられている計器は胴体タンクと翼内タンクの燃料計で，その左は配電盤。





先月号のBf109G-6とP-51Dにつづいて，「カラーで見るコクピット内計器板」，今回は零戦52型である。写真はスミソニアン航空博物館に展示されている機体のもので，コクピット内は，計器，塗装とも，ほぼ原形どうりに復元されている。

左後方からのぞき込んだ91ページの写真では，正面計器板がよくわかる。中央上方に四角いオレンジの“顔あて”が付いたOPL射撃照準器，その下方正面の2個の計器は左側が水平儀，右側は旋回計操縦桿のかげの部分の計器は羅針儀で，その左上は速度計(表示はノット)，その下に半分見えるのが高度計。羅計儀の右横は，上列が昇降計，燃圧・油圧計，回転計の順だが，回転計ははずされている，下列は気筒温度計，油温計，吸圧計の順，その下方の黄色い把手で黒いにぎりのついたのは滑油冷却器(オイルクーラー)の調整用ハンドル，その左は点火栓昇圧スイッチ。

右後方上からのぞいた上の写真では，正面計器板と，座席左側の配置がよくわかる：赤いまるい玉の付いたにぎりは，前方が高度弁操作レバー(AMC)，中央の2個は自動混合気管制レバーと過給器レバー，後方の2個は爆弾投下レバー(左右)である。その左横のまるいブルーのにぎりはタブ操作輪のレバー，その上方のまるい黒のにぎりは20mm機関銃安全装置のレバー。

左の写真では，左側正面計器板がよくわかる。そのうち上列中央の欠けているのは航空時計で，その下はエンジン点火スイッチ，その下方の銀色に見えるまるいレバーは燃料注射ポンプ用，左側の2個は排気温度計(上)と航路計。

グンゼ産業Mr.カラー

GUNZE SANGYO

ハイモデリングのための塗装マニュアル





急上昇する5000機目のファントム

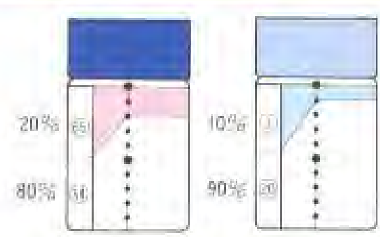
The 5000th

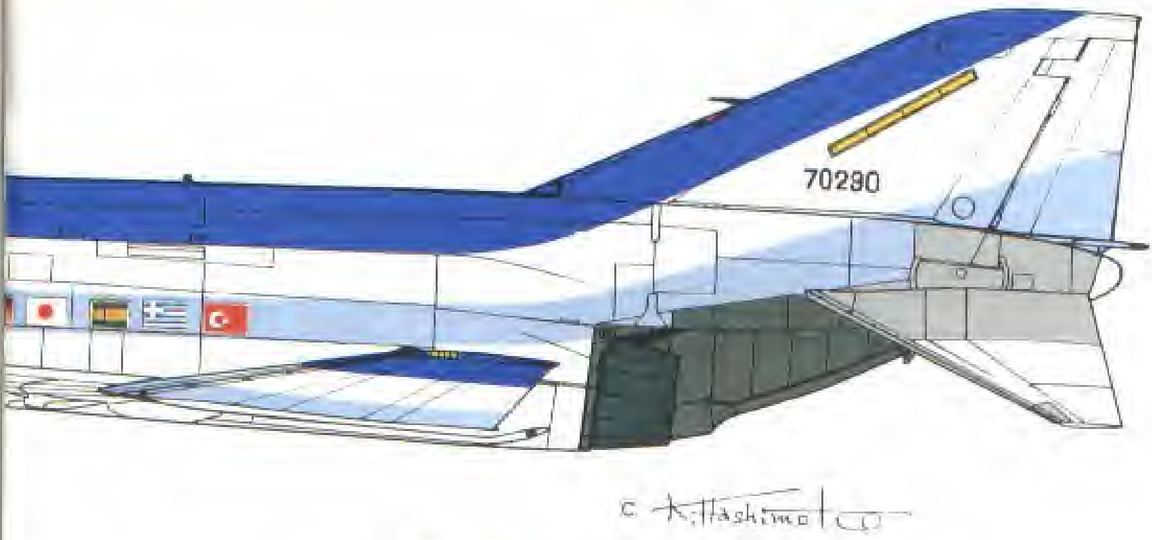
F-4 PHANTOM II

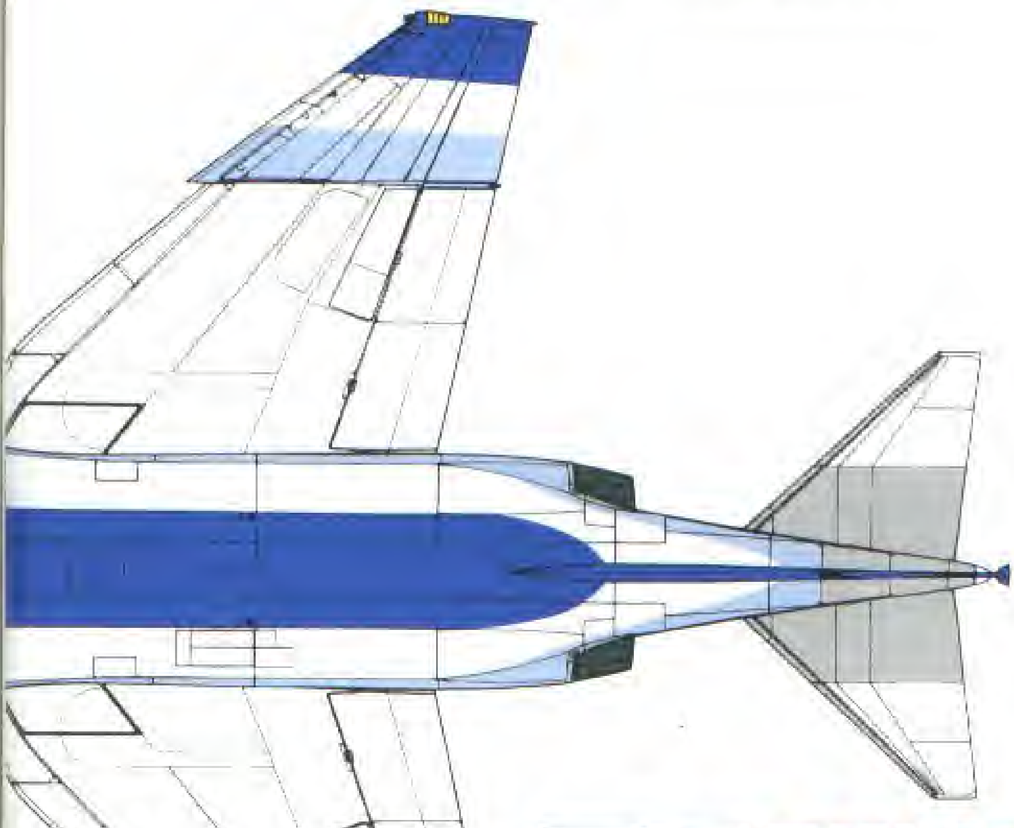


グンゼ産業Mr.カラー
配合ガイト









5,000機目のファントムとなったF-4Eとマクダネル・ダグラス社のJ.S.マクダネル会長 ⬇



GUNZE SANGYO

グンゼ産業Mr.カラー

ハイモデリングのための塗装マニュアル

ファントム5,000号機の塗装

1978年5月24日、マクダネル・ダグラス社のセントルイス工場でロールアウトした5,000機目のF-4Eファントム IIだ。この機体は、トルコ空軍向けの[illegible]。

1958年5月27日にセントルイスのランバート飛行場で初飛行した原型機YF4H-1以来、ちょうど20年目に5,000機目のファントム IIがロールアウトしたことになる。F-4ファントム IIは世界11ヵ国で使用されていて、アメリカ海軍、海兵隊向けに2,264機、空軍は2,640機が生産され、輸出向けとして1,096機が生産されている。

この5,000機記念の機体は全面白の塗装に濃いブルーとライトブルーのラインで塗り分けられており、機体の上面に使用11ヵ国の国旗が描かれており、国籍の標識は両側面に記入されている。機体下面の塗装も上面とほぼ同じで、外翼部に濃いブルーとライトブルーのストライプつき。「Phantom 5000th」は赤で記入されている。

☆グンゼMr.カラー☆

飛行機、自動車、船、鉄道、そして戦車、軍服に至る基本色がそろっているグンゼ・カラーは昔から定評のあるカラー。それぞれの専用色がそろっているが、飛行機の塗装に、これら飛行機以外のカラーを応用するのも、上手なカラーの使い方で、たとえばインシグニアレッドの代用となりそうな鉄道色の赤2号とか、同じ銀色にしても飛行機用とはちょっと異なる自動車とか、鉄道用を部分部分で塗り分けてみるという手法もある。

なお、飛行機用には、ドイツ機色としてRLMグリーンとかF-15イーグル用には、エアスペリオリティ・ブルーなどのカラーも新発売中。グンゼ・カラーなら、ほとんど混色の苦労はいらないほどに、それぞれ専用色がそろっている。

（イラストと解説・嶋本喜久男）




Phantom
5000th


70290

ルフトバッフェの“猛きん”



JUNKERS JU87 DIVE BOMBER

ユンカース Ju87 シュツーカ

解説：川上しげる

〔上〕両主翼下に300-ℓ入りの増槽を吊して洋上を飛ぶJu87R-2。帰投の途中であろうか、胴体下の弾架に500kg爆弾の姿はない。機体下面の細部がよくわかる写真である。

〔右〕工場内で生産されるJu87B。後方には主翼部分が並び、手前の工程ではそれに胴体部分がのせられている。工作順序がわかる面白い写真である。



Ju87B series production line



〔上〕前ページ上と同じく洋上を飛ぶＪｕ87Ｒ-2。Ｂ，Ｒシリーズの特徴ある主脚の細部がわかって面白い。
〔下〕Ｊｕ87Ｂ-2の機首内部クローズアップ。発動機架の細部、各部の配管や配線など、モデラーにも参考になろう。搭載エンジンはユンカース・ユモ211Da(1,200hp)である。





〔右〕生産中のＪｕ87Ｂの機首クローズアップ。滑油冷却器のシャッターの形や、過給器用空気取入口のエア・スクープ前面の金網などがはっきりとうつっている。それにしてもエンジンというものは、新品のときにはまことにキレイなものである。

〔下〕左下と同じく整備中のJu87B-2。作業が一段落したのか、機首上面のカバーを閉める。Ｊｕ87Ｂ-2の特徴であるアゴの滑油冷却器が真横の位置から見える。



⬆ Ju87B-2 wih two 300 ℓ drop tanks under the wing flying over the ocean. Note the wheel spats, particular to this aircraft.
⬅ Ju87B-2. Nose, close-up.

⬆ Ju87B-2. Nose, close-up, on buildup line.
⬇ Ju87B-2 under maintenance.



装備機でたどる 米第５空軍戦史⑯



WINGS OF 5TH AIR FORCE

このページと次ページは、先月号につづいて、第475戦闘大隊（475th ＦＧ）第433戦闘中隊（433rd ＦＳ）のＰ-38Ｊ-10ライトニングで、1944年にニューギニア北西のビアク島で撮影したもの。第433戦闘中隊は、1944年３月から７月にかけて、Ｐ-38Ｆ、Ｈ型を新型のＪ-10型に改装したが、Ｊ型に変えるとともに、プロペラ・スピナと垂直尾翼上・下端のスコードロン・カラーも白からライト・ブルーに変えている。

P-38J Lightnings ol 433rd FS, 475th FG, Bisk Island, 1944, (Photo: C.R. Andersun).




198


192


191





P-38J of 433rd FS, 475th FG, Biak Island, 1944
(C. R. Anderson)

（上）これも1944年にビアク島で撮影した第475戦闘大隊第433戦闘中隊のP-38Jと乗員。土民の子供が並んでポーズをとっている。

（左）第475戦闘大隊第431戦闘中隊（431st ＦＳ）のバール・ジェット中隊長。1943年３月、ニューギニアのナザブ基地にて撮影。機首に画かれているのは、同中隊が後期に採用した部隊マーク"レッド・デビル"。

（下）第５戦闘司令団長のポールB．ワートスミス代将（左）と第475戦闘大隊の大隊長チャールズH．マクドナルド中佐。後方はマクドナルド中佐の愛機。1944年３月、ナザブ基地にて。

← Vert Jett, Commander of 431st FS at Nadzab, New Guinea, March 1944.

↓ Gen. Paul B. Wurtsmith (left) and Lt. Col. Charles H. MacDonald, Commander of 475th FG, Nadzab, March 1944.





GLOSTER JAVELIN

ジェット軍用機の先輩たち

イギリス編 ㉑ グロスター・ジャベリン

グロスター社がミーティアの後継機として1948年のF.4／48仕様に基いて開発した双発複座の全天候ジェット戦闘機ジャベリンは、英空軍としてはこれまでにない大型の戦闘機であり、世界で最初に実用化されたデルタ翼戦闘機でもあった。写真上と下は、1952年8月21日に初飛行した原型2号機のWD808。

Javelin No.2 prototype WD808



Javelin No.3 prototype WT827



ジャベリンは双発デルタにT尾翼配置という当時としては珍らしい外形で、搭載エンジンはアームストロング・シドレー　サファイアSa.6～7ターボジェット(8,000～11,000-lb：3,628～4,990kg)。グロスター社がGA.5と呼んだジャベリンの原型1号機(WD804)の製作を開始したのは1949年4月で、5年後の1954年6月までに5機の原型が完成、つづいて1～9型の各型にわたって総計380機が生産された。最初の生産型FAW.1は1955年12月から英空軍部隊に配備され、最終型が1967年6月にライトニングと交代して部隊を退くまで、12年間にわたって使われている。写真上は1953年3月7日に初飛行した原型3号機のWT827。写真下は1954年6月20日に初飛行した原型5号機のWT836。原型の1～4号機までは、前方のパイロット席のみが透明で、後方のレーダー操作員席は金属製の1枚風防であったが、原型5号機では両席とも透明な2枚風防に改められた。

Javelin No.5 prototype WT836





Javelin FAW.1 XA563



123ページ写真の原型２号機で、水平尾翼上部に見えるふくらみは、アンチ・スピン・パラシュートの収納部である。原型１号機は1952年６月29日、99回目の飛行テスト中に事故で失なわれ、２号機がテストをひきついだが、同機も1953年６月11日に墜落して、パイロットが死亡している。

写真上と下は最初の生産型であるFAW.1。写真下の機体は1954年６月22日に初飛行したその生産１号機のＸＡ544である。同機は生産３号機のＸＡ546とともに、1954年のファーンボロ航空ショーに展示され、欧州各国空軍の関心を集めた。FAW.1はサファイアSa.6エンジン(8,000lb：3,628kg）装備で、40機が生産されたが、そのうち11機はグロスター社に残されて、全遊動式の尾翼やスピン・テスト、ファイアストリーク・ミサイルやレーダー、新型のSa.7エンジン装備など各種のテストに使われている。

First production aircraft FAW.1 XA544



Javelin FAW.2 XA778



写真上はFAW.1につづいて生産されたジャベリンFAW.2。FAW.2はFAW.1のイギリス製AI.17レーダーをアメリカ製のAI.22（APQ43）に換装したもので、機首のレドームがヒンジ止め開閉式の非対称な形に変っている。FAW.2の原型となったXD158は1955年10月31日に初飛行、計30機が生産された。そのうち26機は、1957年6月末からFAW.1の代替機として第46、第85、第89スコードロンに装備されている。残りの4機は、FAW.1の場合と同じく、グロスター社でレーダーや電気系統、エンジン、武装などのテスト機として使われた。写真のXA778もテスト機として残された1機で、全面オレンジの螢光塗料で塗り、のちのFAW.7の装備エンジン（サファイアSa.7）とFAW.8の後燃装置のテスト機となっている。

写真下はジャベリンの複座練習型であるTMk.3。サファイアSa.6装備のFAW.6の機体を基に改造したもので、同じくタンデム複座であるが、後方の教官席は、前方の訓練生の頭ごしの視界が確保できるように、24cmほど高くなっている。機首のレーダーははずされたが、主翼の30mm機関砲4門は、射撃訓練用にそのまま装備されている。TMk.3の原型機（WT841）は1956年8月26日に初飛行、計23機が生産されて、レーミング基地の第228実用転換訓練スコードロンに配備された。写真でごらんのように、後席が高くなっているために、風防も大型のものに改造されている。

Javelin TMk.3 XH432



Javelin FAW.4 XA634



写真上は電動の迎角可変式尾翼を油圧の全遊動式に改めたFAW.4。FAW.4の1号機(XA629)は1955年9月19日に初飛行、グロスター社で18機のほかに、アームストロング・ホイットワース社で32機、計50機が生産され、1957年1月から第141スコードロンをはじめ10個スコードロンに引渡された。FAW.4では、尾端のジェット・パイプが先端のとがったペン先状に改められている。

写真下はFAW.4の両主翼内タンクを各125ガロンずつふやしたFAW.5。翼内タンクをふやすと同時に、主翼下にデハビランド・ファイアストリーク誘導ミサイル4発が吊せるパイロンが付けられた。FAW.5の1号機(XA641)は1956年7月26日に初飛行、グロスターとアームストロング・ホイットワース社で計64機が生産されて、1957年9月から英空軍の9個スコードロンに配備された。

〔FAW.5データ〕

エンジン:アームストロング・シドレー　サファイアSa.6ターボジェット(8,000-lb:3,628kg)×2。

全幅15.8m、全長17.1m、全高4.8m、翼面積86m²。

離陸重量(クリーン)15,871kg、(胴部燃料タンク装備)17,857kg。

最大速度1,134km/h(SL)、991km/h(高度12,192m)、45,000ft(13,716m)まで10.8分、実用上昇限度15,270m。

Javelin FAW.5 XA714

